

「きらきらの魔法使いになりたい」

40歳代グランプリ 川上あゆ美

ミセス日本グランプリ  
第6回ミセス日本グランプリ受賞者の手記

<http://www.mrs-nippon-grandprix.com>



## はじめに

私の夢は？、と聞かれたら「魔法使いになりたい！」と、答えます。笑われてしまいそうですが、私は、大まじめです。



魔法って、本当は、私たちの身近にあって、普通に働いている「潜在的な力」なのだと思います。

アラジンのジーニーのように、魔法のランプはないけれど。ドラえもんのようにポケットはないけれど。

この手と足と、そして心を使って、私の周りのすべての人の夢を叶えるお手伝いがしたいです。

もっと、その力をつけるために、もっともっと勉強して、成長したいです。

2013年 第六回ミセス日本グランプリに選んでいただきまして、そして、この度、電子書籍を出版することになり、自分の人生を振り返る機会を与えられたことに、心から感謝しています。

この本が、日本のミセスの皆さんの勇氣や、希望や、夢の実現に向けて行動を起こすきっかけや、ヒントになりますようにと願います。

行動をすると、カベみたいなものはつきものです。

そのカベは、実は「夢を叶える入口」です。

だから、カベに触れたとたん、私はいつも、ワクワクドキドキします。

そのカベが、大きければ大きいほど、その入り口を開けた時には、ご褒美として、すごい幸せが、いつも待っていてくれるからです。

身体の弱い 転校生

私は、横浜生まれです。

どこで育ったのかと聞かれたら、よくわからないくらい、私は家庭の事情で、たくさんの引っ越しをしました。

なので、転校生を何度も経験した、子供時代でした。

幸せなことに、私は、先生やお友達には恵まれ、転校生だからといって嫌な思いをしたことはありません。



絵画と私

体の弱かった私は、読書と、絵を描くことの好きな、手のかからない、おっとりとした性格だったそうです。

私の詩や絵画がコンクールで表彰をされて、新聞に掲載していただいたこともありましたが、先生は、そんな私に、美術の学校を薦めてくれましたが、私には、そんな気は、全くなく、のんびりとしていました。

これは、母の影響だったと思います。

小学校の頃、よく母は、私を座らせては、デッサンを描いてくれました。

じっとしているのは大変でしたが、母に見つめられて、自分の姿を描いてもらうのは、くすぐったいような、嬉しいような、何とも言えない贅沢な時間でした。

末っ子で、甘えん坊だった私は、学校から帰ると、油絵や水彩画を描いている母の膝の上に座り、描きかけの絵が仕上がっていくのを眺めるのも好きでした。

ルノアールやゴッホなど、有名な絵画展に、母は時々、私を連れて行ってくれました。



まるで生きているような、今にも動き出しそうな人物画や、川のせせらぎや、風の音が聞こえてきそうな風景画に、本当に驚いて、感動したのを思い出します。

### 埼玉のムツゴロウ一家？

大の生き物好きの私は、小学生の時の夢が「動物園の飼育係」でした。

アリも踏まないように歩き、蚊に刺されても殺さずに、じーっと見ているような子供でした。

こちらは、父の影響です。

父は、とても躰に厳しく、怖い存在でしたが「弱いものや、口のきけないものには、優しくしなければいけないよ。」と、いつも言っていました。

そんな父は、事情があつて飼えなくなった犬や猫を、連れて帰ってきたり、ノラ犬やノラ猫を保護してきたり。なかには、ウサギやフクロウも連れて帰ることもありました。

そんなわけで、我が家は、まるで、ムツゴロウ一家さながら。

皆それぞれ、性格が違って、おっとりさんや、やんちゃな子、怖がりさんや、甘えん坊さん・さん。

生き物と接していると、皆、本当に笑ってしまうくらい正直で、可愛くて、優しくて、思いやりに溢れています。

その姿から、大切なことに気付かされるのが、たくさんあります。言葉はなくても、瞳で解り合えます。

ただ、当時の母は、それだけたくさんのお世話をするのは、本当に大変だったと思います。きれい好きな母は、いつも、みんなの毛づくろいをして、話しかけながら、ブラシをかけてあげては、部屋の掃除機がけと、ガムテープでソファーや絨毯についた毛をペタペタと取っていました。

夏祭りには、母と姉と、里親になってくれる人を探すために、仔犬を抱っこして出掛けたりもしました。

他にも、父と母は、近所の公園に行き、ノラ猫たちが、これ以上増えないように、保護しては動物病院に連れて行き、去勢手術をする活動もしていました。

動物愛護の活動と現状は、本当に課題がいっぱいで、簡単ではありませんが、ミセス日本の会の活動を通して、私は、両親の意志も引き継いで、出来ることから精一杯、取り組んでいきたいと思えます。

## 両親の離婚

小さい頃は、インドアだった私ですが、栃木の高校に入学すると、お友達に誘われるがままに、チアガール部に入部しました。

なんとその年には、甲子園初出場を果たし、ひと夏で5キロも体重が落ちる程、毎日の炎天下でのハードな練習で、真っ黒に日焼けしていました。

そして、大学は、渋谷駅から徒歩で行ける学校に入学して通学していました。

時代は、渋谷カジ、女子大生ブームの真っ只中。

バブル期ということもあり、割のいい、女子大生向けのアルバイトは、たくさんありました。

レースクイーンやフジテレビの深夜番組、青山のレストランでのアルバイトをしながら貯めたお金で車を買ひ、海外旅行へ行ったりもして都会での大学生活を満喫していました。

私が大学を卒業して、就職するのを待っていたかのように、両親は離婚をしました。それは、幼い頃から予想していたことでした。



とてもワンマンだった父と母は喧嘩が絶えず、私は幼い頃からずっと、円形はげが幾つもありました。

私は、神様によく手紙を書いて、「神様、世の中から、喧嘩や争いがなくなりますように。」とお願いをしていました。

本当に、早く大人になりたくて、幸せな家庭を築くことを、夢見ていました。

### ソーシャルコミュニケーションビジネス

大学を卒業後、私は、キティちゃんで有名な、(株)サンリオに入社しました。

入社してびっくり。男性社員も女性社員も、役員の方々も全員、仕事に使用しているボールペン等の筆記用具、ノート、スケジュール帳など備品のすべてが、可愛いサンリオグッズです。

当たり前といえども当たり前かもしれませんが、会議室のパイプ椅子までも、すべてキティちゃんやケロケロケロップなどのです。

私はすぐに、すっかり、サンリオキャラクターの大ファンになりました。

品川区にある、本社ビルの営業部に配属になり、商品の発注手配など営業事務の仕事をして、7か月が過ぎました。

年が明けて会社へ行くと「明日から、社長秘書として勤務するように。」と、突然辞令がおりました。

ドキドキしながら、今までとはうって変って静かできれいな秘書室で、仕事をするようになりました。

辻信太郎社長は、当時は65歳。社員をととても大切にされる方で、笑顔の優しい、それでいて仕事にはとても厳しい、本当に尊敬できる方でした。

キティちゃんは国連の親善大使です。

社長はいつも、「サンリオは、メーカーでも商社でもなく、商品やサービスをを通して世界中のお友達の心と心をつなぐ、ソーシャルコミュニケーションビジネスです。」と、お話しされていました。

どんな人も、たったひとりで生きることではできません。

支え合い、信じ合い、助け合って、世界中の人々が仲良く暮らせますようにと心から願います。



大好きなサンリオでの仕事でしたが、私は結婚を機に、子どもの頃から夢見ていた、「憧れの専業主婦」を夢見て、寿退社をしました

### 憧れの専業主婦・・・

私は、27歳の時に、大手金融会社に勤めるサラリーマンで転勤族、一つ年上の主人と結婚をしました。

そして、ハネムーンベビーの娘を授かり、出産後すぐに、東京都杉並区にある、主人の会社の集合住宅へ引っ越しをしました。



私の父は自営業で、父の仕事を手伝う母の姿を見て育ちました。そんな、私の育った家庭とは全く違って、サラリーマン・転勤族・社宅での子育ては、どれも新鮮なことばかりでした。



おしゃれをすることも忘れて、毎日毎日、社宅の庭のお砂場で、子供たちを遊ばせながら、社宅の奥さま達と井戸端会議。会話といえば、幼稚園はどこにするか、習い事は何がいいか、主人の出世の話や、噂話、芸能人ネタ、などなど。そんなふうには、子育てに専念し、3年が経ち、私は2人目を妊娠、出産しました。

その頃から、「このままこの生活が続くのかな。このままでもいいのかな。」と、感じ始めていました。

小さい子供を2人連れて、行動できる場所も限られていました。ベビーカーを押しながら、毎日決まった駅前のスーパーと、児童館と、社宅のお砂場の、「三角地帯」を歩き来するだけの生活。

雨の日は、子どもが退屈するので、社宅の誰かのお宅で集まって持ち寄りランチや、お茶会。子どもたちには、ビデオを見せたり、おままごとをさせて遊ばせている横で、ママたちは朝から夕方まで、お喋りをしたり、こども同士のケンカの仲裁をしたり。

そして、皆で集まっては、まとめ買いをするとお得な通販や、生協の共同購入の注文をして、電気やガス代の節約情報を交換し合ったり。

子供に「○○しなさい！。○○しちやダメ！」と、毎日毎日、同じことを口にすると、そんな自分が嫌になることも、しばしば。

どんどん、世間から取り残されているような閉塞感、女性としての輝きも失っていくような焦りで、悶々としていました。

そんなある日、一本の電話が鳴り、父の余命を宣告されました。胃がんでした。

### お葬式は、人生の通知表

父は、56歳の若さで、この世を去りました。

余命宣告から約半年間の、父の看病になりました。

その時の私は、2人目を出産したばかり。

一人で暮らす父の介護をする人は、私しかいませんでした。

病室にいる時は、明るく振舞い、家に帰ると、娘たちに心配をかけないよう、ビデオを見せている間に、枕に顔をつけて、毎日のように泣いていました。

仕事の忙しい主人の帰りは遅く、深夜になることもあり、休日出勤は当たり前でした。産後の体調の変化と、父の死を受け入れなければならぬ現実と、不安。

孤独な看病の日々。

いっぱいいっぱい、ギリギリの精神状態でした。

娘たちに当たらないようにしなくては、不安にさせないようにしなくてはと必死でした。

そんな日々のなかで、娘の笑顔だけが私の幸せであり、私を支えてくれました。

父がこの世を去ったのは、母のお誕生日の日でした。

別れても尚、夫婦の絆の不思議さを感じずにはいられませんでした。

私は実は、父の最後の時に、そばにいてあげられませんでした。

父と対面できたのは、病理解剖が済んで、自宅に送り届けられ、布団に寝かされた状態でした。思わず駆け寄ると、父は冷たくて固くて、もう、人の肌の感触ではありませんでした。



私は人生で、あれ程泣いたことはありません。

容体の急変で仕方なかったとはいえ、どうしてそばにいてあげなかったのだろうと、今でも悔やまれます。

親の死に目に会えないということが、これほど辛いことだとは思いませんでした。

父は、三菱電機の間屋をしていました。

スナックも経営していましたが、バブルの頃は景気が良かったのですが、時代の流れとともに、どちらも、なんとか赤字だけはまのがれているというような状態が、何年も続いていました。



通夜・告別式には、父が生前お世話になった方々にお集まりいただきましたが、事業も衰退し、離婚もしていた父の最後は、とても寂しく感じました。

お葬式は、人生の通知表だなあと思いました。人は生まれてから死ぬまでに、山あり谷あり、いろいろな時期があります。

皆、一生懸命に毎日を生きていますが、最後をどう迎えるかは、とても大切なのだと思います。

どんな生き方をしたいのか、どうありたいのか。

私にとって、父の死は、たくさんのことを教えてくれました。

人生を見つめ直す大きな転機になりました。

当時の私は、子育てに専念し、忙しい毎日を過ごしながらも悶々としていました。

自分のために何かしよう！

これからは、〇〇ちゃんのママ、〇〇さんの奥さんとしてだけでなく、川上あゆ美という個人として何かがしたい。

あなたに出会えてよかったと、心からたくさんの人に集まっていただけ、そんな私のお葬式になるような生き方をしたいと、心から思いました。

## 第2の人生のスタート！

父の死から数か月が経ち、父の事業の後処理や手続きが一段落する頃、「本当に人生には限りがあるんだ。」という実感が湧き上がってきました。

ますます、何かがしたい！と思う気持ちは強まるものの、一体私に何が出来るのだろう・

2人の子どもは小さいし、何か資格があるわけでもないし、転勤族だし・・。  
出来ない理由を並べれば、いくらでもありました。

子どもが小さくても、時間の融通がきいて、興味のある分野で成長できるような、私にしか出来ないことって何だろう。

このままではいやだ！。何か出来ることは？。思えば思うほど焦るばかりでした。

世間ではちょうどその頃、TV番組の「はなまるマーケット」がスタートしたばかり。

そして、雑誌のSTORYが創刊され、料理研究家の栗原はるみさんが憧れの主婦として大人気でした。

主婦でも、子どもがいても、いくつになっても、頑張っている人がいるんだな。私にだって、きっと何かできる！と、思う気持ちを抑えきれませんでした。

そんなある日、幼稚園のママ友達の家に、娘を連れて遊びに行った時に、

「川上さん、こんなの出てみたら？」と、見せてくれたのが、主婦の友社のc o m oという雑誌でした。

今までの私だったら、雑誌に出るなんて、とんでもない！。と聞き流すところでした。



主人の会社の社宅で暮らしていたので、目立つことは避けたかったし、何より、自分に全く自信もありませんでした。

ところが、家に帰っても、何だかc o m oのことが気になって仕方ありませんでした。この仕事だったら、普通の主婦が活躍できて、自分磨きも出来る。

娘たちもきつと喜んでくれる。

「ママみたいになりたい。」と言われる女性を目指して、チャレンジしてみようと思いましたが、

応募書類に同封する写真を撮るためにダイエットをして、一ヶ月で6kg体重を落としました。

4歳と1歳の娘たちの子育てと、父の介護に専念していた私は、おしゃれをすることを忘れ、自分の体型を気にすることなどありませんでした。

今思えば、やみくもなダイエットでしたが、産後太りは、すっかり解消されました。そして、いよいよ、最終選考進出まで進むことができました。

ところが、なんと、その当日は、「父の一周忌」の日と重なっていたのです。

しかも、私は喪主。どうしよう・・・。本当に悩みました。

それでも、やっぱり、私は最終選考に行くことに決めました。

きっと、父に話したら、私が本当に真剣に、未来を選択したことを、応援してくれるはずだと思いました。

何が何でも、このチャンスを掴みたい。

私にとってその日は、かけがえのない、

第二の人生のスタートでした。

結果通知は、合格でした。

後から聞いたたら、なんと5千人中の10人でした。

しかも私は最年長。

きっと父が、応援してくれたのだと思います。





それから、料理コンテストへ出場。アンチエイジングメニューの紹介。

美容、栄養、健康の提案など、主婦の私が、日常生活の中で普通にしていることが、日本中の皆さんの、何かヒントになったり、お役に立てるということが本当に嬉しくて、もっと喜んでもらいたい！と頑張っていました。

主婦業をしていると、毎日、家事や育児など、本当に時間に追われ、忙しく頑張っている、なかなか努力を評価してもらおうこともありません。私はまさに、水を得た魚のようでした。

### 自分を試してみたい！ 女性の自立支援スタート

私にはお姑さんから言われた大切な言葉があります。

「あゆみちゃん、一生仕事は持ち続けなさい。子どもはいつか手が離れていくもの。でもね、どんな仕事にしても、子どもに寂しい思いをさせてしまうことにはあるもの。

それなら誰がやっても同じような仕事をするのではなく、あゆみちゃんにしかできない、子どもたちに誉れるような仕事をしなさいね。」

その言葉を胸に、私はもっと、自分にしかできなくて、一生続けられて、人に喜んでもらえて、役に立てるような「何か」をずっと模索していました。

そして、今から6年前に、私は思い切って、フリーで仕事をスタートしました。

「女性の自立支援」事業です。

もっと自分を試したい！。

雑誌の誌面を通してではなく、フェイス・トゥ・フェイスで、目の前の人を大切にしながら、

美容と健康のお手伝いや、

そして、私と同じように「何か」を

悶々としながら見つけられずにいる人たちの、

応援がしたいと思いました。



両親の離婚という経験を通して、私は子どもの頃から、女性が経済力を持つことの大切さと、そして、子育てをしながら、女性が経済力をもつということの、難しさ、大変さも知っているつもりです。

でも、それに負けずに、自分が、どんな生き方をしたいのかということ、見失わずに大切にしてほしい、貫いてほしいと思っています。

もちろん、妻として、母として、嫁として、家事や育児や介護をしながら、女性が何かを貫いて自己実現や仕事をするということは、簡単ではありません。

やはり、何かの、誰かのサポートは必要です。

一人で抱えて必死で頑張ればかりでは、ひずみや限界がきてしまいます。

私は、人生の98%は、人とのコミュニケーションによって巡ってくるもので、自分にやれることは2%しかないと思っています。

運がいい人は、周りが応援したくなる人。

私も、本当に多くの方々に助けていただき、支えられながら、今があります。

この経験から、私は「女性の自立支援」という仕事を通して、自分のビジネスを持つ勇气の提案と、「何か」を探して前に進もうとしている全ての人を、応援し続けていきます。



ボランティアについて

子どもを産んで育てるようになるのと、同じ小さな命が、世界のどこかで苦しんでいるということが、堪え難く、とても辛いことだと思うようになりました。

黒柳徹子さんが書かれた本で、ユニセフの親善大使になられてからの13年間に、栄養失調や感染症、また内戦や戦争にまき込まれながら、愚痴も言わずに大人を信じて小さな胸を痛めているたくさんの子どもたち、そして死んでいった子どもたちとの体験をつづられた本を読んでは、胸が痛み、ずっと心にひっかかったままでした。

私はフリーで仕事を始めた頃から、日本国内の支援を必要としている子どもたちへ食糧支援、教育支援をする「セカンドハーベスト・ジャパン」

地球上のあらゆる環境や文化の保全を目的とした「シーロジャー・ジャパン」。

美しい自然を、未来の子どもたちに残すために、自然保護を目的とする「霧多布湿原ナショナルトラスト」。

飢餓から子どもたちを救う支援プロジェクト「ナリッシュユザチルドレン」。

貧しい国の人々を自立につなげるために、教育を身につける農業訓練校の建設SAFI (school of Agriculture for Family independence) への寄付活動を続けています。

これからはミセス日本グランプリの一員として、より、社会貢献を広げ世界中に笑顔の幅を広げていくのをとても楽しみにしています。

### 私のネタ帳！

日々、女性の自立支援のお仕事をしながら、どうしたら、皆がもっと自分の力を発揮できるのだろう。

どうしたらもっと自信を持てるのだろう。

と考えていくうちに、私はちょっとおもしろい工夫を思いつきました。

皆が勇気が出るように、私の失敗談をいつでも話せるように、ネタ帳を作りました。



ドジな私のことですから、ネタ帳はすぐいっぱいになり、書ききれないくらい盛りだくさんです。

なので、「人に勇気を与えてあげる日本一」になる日も、近いかもしれません。笑！



私は、失敗をしても、立ち直りが早いのは、この失敗は面白いネタになる！と思えるからなのです。

失敗をしたり、やっちゃったことは、一歩先に進んだ証拠なのです。

だから、私は、じゃんじゃんワクワク、チャレンジし続けます。

## 夢は叶う！

私には夢がたくさんあります。

10年後の私は、きつとそのたくさんの夢が叶っています。

まず、個人でできることの一つとして、「託児所つきのカフェ」を作っています。

子育て中のママでも、自分磨きをしたいと思う誰もが、ワンコインでいろんな講座を受けることのできるカフェです。

そしてもう一つ、10年後の私は、恵まれない国に、学校を作っています。

国際相互協力、そして日本と世界の絆を結ぶことは、とても大切なことです。

先進国に住む私たちは女性でも、自由に、自己実現ができます。

でも、世界中には、学びたくても、学ぶ学校のない国は、数多くあります。

特に女の子が教育を受けることが難しかったり、トイレが完備されていなかったり。戦争や内戦によって、男の人が怖くなってしまっている女の子も、多いそうです。戦

素敵な夢を持っている、世界中のすべての子どもたちの夢が叶いますように。



作っています。10年後の私は、そのような環境にいる女の子が、安心して通える学校を、

死ぬまで成長！

ギャップがある人って、素敵だなと思います。

私は、「自分らしさ」をつくってしまっただけから、たとえ20代でも30代でも、老いの始まりだと思っています。

この服は私らしい・・・とか、そんなことをしたら私らしくない・・・とか。それをいかに打ち抜くか！です。

私の好きな言葉を、手帳に書き留めてあります。

「絶対に真似のできない、真似しようとする思わないレベルの革新を続ける」というステイブジョヴスさんの言葉です。

ミセス日本グランプリに出場するきっかけも、お友達とランチをしながら、「あゆみちゃんも出てみたら？」と声をかけていたのだいて、そんな素敵な活動があるなんて！と嬉しくなって、即座に、申し込みをしました。

お陰で、かけがえのない、たくさんさんの経験と、素晴らしい出会いがありました。

これからのもの、活動を通してたくさんの方の笑顔に出会えると思うと、本当に楽しみでワクワクしています。



私は、80歳になっても、90歳になっても、自分でもびっくりするようなことにも、ためらわずに、どんどん挑戦して、死ぬまで変化し成長しつづけていきたいと思っています。

美しさのレシピは、外から2割。内から8割、そのうち4割は心。

小さい頃から体の弱かった私は、自然と、健康に関する情報に興味を持つようになり、いつの間にか、それは、私のお仕事になっていました。

30歳を過ぎたら、美容⇨健康です。

いつまでも若々しくいるために、私が、日々心がけていることがいくつかあります。

外側からの、スキンケアなどによるお手入れは、意識としては2割程度。

あとは、体の内側のメンテナンスを、しっかりと整えてあげることが、大切になっています。

・「リンパを流すこと」 免疫力が高まります。

・「生体電流を整えること」 人間の体は、もともと、微弱の電流が流れています。これを整えることは、自律神経を整え、代謝が高まり、美肌・痩身・むくみ・アンチエイジングにつながります。子どもの頃から悩まされた心臓の不整脈も、嘘のように治りました。



・「栄養をバランス良くしつかり摂ること」 最新の科学によると、遺伝子が乱れる大きな原因は、食生活の乱れだそうです。それならば、バランスのよい栄養によって、遺伝子の修復が可能だということです。

そして、心の状態を整えることも、とても大切なことです。

・「バランスのとれた生活」 私の手帳のスケジュールは、内容によって色分けされています、バランスのとれた生活をおくることを大切にしているからです。

母としての時間は、ピンク色。娘たちと過ごす時間や、今年引き受けている、中学校の役員の副部長の活動もここです。

仕事をしている時間は、赤色。私の場合はフリーのお仕事なので、時間が自由に使えます。

自分磨きの時間は、水色。本を読んだり、映画を観たり。ステップアップのために、講座を受講して勉強をする一人の時間です。

大好きなことをする時間は、紫色。

これをするようになってからは、たとえどんなに忙しくなっても、ストレスが全くたまらないのです。

・「全てに感謝すること」 生活のバランスや、リズムが整っていると、気持ちにゆとりが生まれ、心が安定し、いつも笑顔で過ごすことができます。

笑顔が増えると、周りの皆にも、ハッピーの輪が、自然と広がっていきます。

「川上さんは、本当に、いつも楽しそうですね。」と、言われます。

今まで生きてきて、今が一番幸せ！と、私は心から答えます。

きつと、来年はもっと幸せです。

私を、いつも支えてくださる、家族や、皆さまのお陰です。

もっと、皆さんのお役に立てるように、皆の個性や、

得意分野を集結させた講座

「トータルビューティーアカデミー」も、スタートしました。

いくつになっても、「夢を持ち、チャレンジする心」。

これこそ、究極のアンチエイジングですね。



## 子どもたちのこと

ちようど、このページを書いている今日は、下の娘の14歳のお誕生日です。

長女は、今年17歳になりました。

娘が生まれた日は、世界中に祝福されているような、なんとも言葉にできない、本当に幸せな気持ちになりました。

と同時に、母親になった喜びだけでなく、不安もいっぱいでした。

娘が1歳のお祝いのは、私も母親になって1歳。

娘が10歳のお祝いのは、私も母親になって10歳。

娘たちとともに、成長してきました。

家事と育児と、時にはハードな仕事との両立の日々を、

私は娘たちと共に育ち、支えられて、乗り越えてきました。

お料理の仕事の時には、出来上がった料理やパンを、

「美味しい！」と、喜んで嬉しそうに食べてくれる娘たちの笑顔が、いつも私を励ましてくれました。



父の看病で、公園で遊ばせてあげることが全くできず、「ごめんね。」と、心の中で何度となくつぶやいた日々も。

仕事帰りが遅くなる日が続き、寂しい思いもさせた時も。家に帰るとクタクタで、手抜きのお惣菜で済ませた日も。

いつもどんな時も、娘たちも私と一緒に頑張ってきてくれたのだと、しみじみ思います。私の原動力は、いつも娘たちです。

生まれた時から、社宅暮らしだった娘たちの夢は、ペットの飼える家に引っ越しすることでした。

フリーになって3年、私の仕事が軌道に乗ってきて、念願叶って、一軒家に引っ越しをして、愛犬を飼った時の、嬉しそうな顔は、忘れられません。全ての苦労も吹き飛びました。

いつのまにか、娘たちは、私の背丈を超えました。

まだまだ中身は子どもですが中学生、高校生になり、それぞれがいろんなことを乗り越え、優しい子に成長したなあと思います。



これからも、夢を持って、夢に向かって、たった一度きりの人生を、思いきり楽しんで、幸せになつてほしいと思います。

私も、まだまだ、母として、ひとりの女性として、いくつになつても、思い切り楽しむ、背中を見せ続けたいと思います。

そして今、私の夢は、娘たちに、世界中のいろんな国の景色を見せてあげることです。私が一番幸せな時間は、娘たちと美味しいものを食べたり、ショッピングをしたり。そして、ドライブをしながら、いろんな話をするとき。

今もこれから、娘のバースデープレゼント選びに、神戸と一緒にショッピングに行つてきます！。

### 主婦が仕事を持つということ

長女が、中学校に入学した年の4月、主人が東京へ転勤になりました。私が想像していた以上に、家庭のバランス、空気が大きく変わりました。

私立中学へ、朝早く電車を通うようになった長女は、環境も変わり、いろいろと無理をしていたみたいです。

小学5年生だった次女も、大好きなパパに毎日会えなくなり、私が思う以上に、淋しい思いをしていたみたいです。

そんな中、私も、ちょうど、今の仕事を立ち上げたばかりで、仕事も、家事も、育児も、どれも大切と、一生懸命頑張っていました。5時半に起きて、6時過ぎに娘を見送り、一日中仕事をして、夕食の支度をしていると、クタクタで泣けてくることもありました。

夕食後に、娘の部活のユニフォームの洗濯。

夜になって、メールのチェック。返信、電話。

家事は、夜中になります。

お弁当のおかずがなくて、慌てて、24時間営業の

スーパーに、2時、3時に駆け込むこともありました。

気が付くと、空が明るいななんてことも。

だから、主婦の皆さんが、仕事と家事の両立を、本当に頑張っているのがわかるから、私はこれからもずっと、それをわかってあげられる、女性のリーダーでありたいなと思っています。



## 私の目標。現代版のヤマトナデシコ

ずいぶん前に聞いたのですが、自分のミッションステートメント、目標を、明確にイメージできない時に、よい方法があるそうです。

自分の死亡記事が新聞に載ったとき、あるいは自分のお葬式で、「生前、何を成し遂げた人」として、周りから語ってもらいたいのか、説明してもらいたいかを考えてみるといいということでした。

なるほどっと思つて、早速書いてみました。

川上あゆ美は、「女性の自立支援を、生涯通じてした人」です。

具体的には、子育てと仕事の両立をする手段の提案。経済の自立、精神的な自立の応援。健康のサポートです。

ミセス日本グランプリのコンセプトは、「現代版のヤマトナデシコ」だと聞いたときに、なんてステキな言葉だろうと思いました。

ヤマトナデシコとは、日本人女性の、家庭をしっかりと支える芯の強い女性を表した言葉ですが、「現代版のヤマトナデシコ」とは、そういった妻や母としてだけでなく、更に、ひとりの女性として自己実現も成し遂げる、働く女性。

賢くて、カッコいい女性をイメージしました。

私の母は、まさにヤマトナデシコです。  
私は、母のことは、一生超えられないなあと思います。



きれい好きで、働き者で、優しくて穏やかで、いつも私を励ましてくれます。  
「あゆみちゃんなら、できるわよ。」という母の言葉を胸に、私はこれからも、母を超えられるよう、そして、現代版のヤマトナデシコを目指します。

魔法使いになりたい！

冒頭でも書きましたが、私の夢は？、と聞かれたら「魔法使いになりたい！」と、答えます。私は、女性の自立支援の仕事をして、生涯、死ぬ瞬間までしていると思います。

ビジネスにおいても、大切なのは、自分にとって何が幸せなのか、どうすればワクワクできるのかを知ること。人生観を固めることだと思っています。つまり、自分なりの価値観をはっきりさせること。

本当にほしいもの、したいことを、ただ一つに絞って言うこと。

そして、そう言い切る人に、人はついていくのだと思います。

「不可能を、可能にする」という言葉が、私は大好きです。



人生は山あり、谷あり。あらゆる出来事乗り越え、幸運をつかむには、方法も、法則も、テクニクもなくて、あるとすれば、ただ一つだけ自分は運がいい！と信じること。

私は、10年ほど前から、父の知り合いで顔もほとんど知らない方の、借金1000万円を返し続けています。そして、もうすぐ、完済目前です。

事業をしていた父が、生前、取引先の連帯保証人になり、その方が十年程前に突然、破産の手続きをされたので、父の相続人である私が、引き継ぐことになりました。

さすがの私も、この時ばかりは、先が見えない気持ちになりましたが、話し合いを済ませ、新幹線に乗り、東京駅から新大阪駅への帰り道、「よし！返すぞ！」と決めました。

決めたら、カンタン！

父が生前、お世話になったことに感謝をして、返済をしてきました。

これがあるから頑張れる！ということがあるのは、

本当に、ラッキーなことです。全てに感謝です！。

人を喜ばせること

何を一番大切にしているかと聞かれたら、私は迷うことなく「時間」と答えます。

そして、大切な自分の時間を誰と過ごすかということは、同じくらい大切にしています。



私の周りには、心から信頼し、尊敬できる素晴らしい人たちがたくさんいます。いつも支えていただき、学ばせていただくことばかりです。そして、皆さん、とても喜ばせ上手なのです。

世の中は、たくさんの人を喜ばせた人が、勝つ仕組みになっていると思います。ミセス日本グランプリの、社会貢献の活動を通して、これからもたくさんの方の喜ぶ笑顔に出会えますように。